



今月新しく入りました。

●一般の本

／おおきなかぶ、むずかしいアボカド 村上ラジオ2 (作=村上春樹) / 早雲の軍配者 (作=富樫倫太郎) / やなりいなり (作=畠中 恵) / 誇りあれ 札幌方面中央警察署南支署 (作=東 直己) / 夜去り川 (作=志水辰夫) / 癒だまし (作=山内令南) / 体脂肪計タニタの社員食堂 500kcalのまんぷく定食 (作=タニタ)

●子どもの本

／かいけつゾロリのはちゃめちゃテレビ局 (作=原ゆたか) / ばけくらべ (作=松谷みよ子) / ぼく、だんごむし (作=得田之久) / だるまちゃんどてんぐちゃん (作=加古里子) / ふしぎなナイフ (作=中村牧江、林 健造) / しげちゃん (作=室井 滋)

中でもこの本が **オススメ** です。

ポニーテール

作=重松 清



マキとフミは、できたてホヤホヤの「新米きょうだい」二人の心は、近づいたり離れたり、すれ違ったり衝突したり…。こんなふうにして、わたしたちは少しずつ家族になっていく。これはすべて、仲直りの物語。それぞれの父母が再婚して「家族」となった二人の少女が過ごした始まりの日々を、やさしく見つめる姉妹小説の決定版。

米村でんじろうのイッキによめる！ おもしろ科学 小学校1～3年生

作=米村でんじろう



でんじろう先生の学年別おもしろ科学読本。小学生が興味を持ちそうな、身近な科学の疑問に、でんじろう先生がおもしろ実験を交えながら解説！学校の勉強だけじゃわからないさまざまな疑問に、でんじろう流で答えます。豊富なイラストや実験漫画で科学が楽しくなる一冊。



花のあと

作=藤沢周平

時 代小説といえ、藤沢周平作品。江戸時代の庶民や下級藩士の哀愴が味わい深く描かれていて、爽やかな読後感を持たれることでしょう。この作品は、古いしきたりの中で、自分らしさを貫いて生きぬいた女性のお話です。男勝

りで剣の腕前を誇る「以登」は、たった一度竹刀を交えた剣士「孫四郎」に恋をします。しかし、孫四郎は畏にはめられ自決、以登は静かに仇討ちを考えます。強く、そして、優しい人々に出逢える一冊です。



くまとやまねこ

作=湯本香樹実

人 との別れは、いくつになっても淋しく辛いものです。そんな時、そばに居てほしいのはどんな人でしょうか。ある日突然、熊は仲良しだった小鳥と永遠の別れをします。悲しくて悲しくて、ひとり家で閉じこもってしまった熊。そんな

な熊の心を開いたのは…。やまねこの優しさが、そっと伝わってくる心あたたまるお話です。酒井駒子さんの絵の中にも、熊の思いが感じられることでしょう。



春の桜、夏の花、秋の紅葉、冬の雪…。美しい四季が体感できるのは日本人の特権。そんな私たちがだからこそ、

読みたくなる「旬」の本があります。シリーズ「旬の本だな」。10月は「優しさ」をテーマに2冊の本をご紹介します。紹介者は石松一葉さん(鞍手町文庫連絡会)です。

Dr.長谷川の

調子はいかが？

町立病院 ☎42局1231番

町立病院スタッフ
からの健康
アドバイスです



血尿・蛋白尿などの検尿異常を指摘された場合、どのような病気が考えられますか？
(52歳・男性)

【検尿からわかる病気】

血尿は、自分で「尿が赤い」とわかる肉眼的血尿（目に見える血尿）と、尿検査ではじめてわかる顕微鏡的血尿（目に見えない血尿）とに分けられます。



す。

腎・尿路系の臓器は主に腎臓・腎盂（じんう）・尿管・膀胱・尿道からなっています（男性の場合前立腺含む）。これらの臓器のどこかに悪性腫瘍（いわゆるガン）が発生すれば血尿の原因となります。また、単純に膀胱炎や腎盂腎炎などの炎症でも血尿はみられます。このような疾患が疑われた場合は泌尿器科を受診することをお勧めします。

血尿が持続している場合は一度病院で詳しい検査をしてみることをお勧めします。血尿が見られた場合、最低でも腎・尿路系の悪性腫瘍と糸球体腎炎の確認が必要となります。

また、血尿に加えて蛋白尿や形のおかしい赤血球、赤血球円柱などを認める場合は糸球体腎炎という腎臓の病気を疑います。こちらは腎臓内科の病気で、腎臓自体がさまざまな原因で障害されることにより検尿異常をきたす疾患の総称です。

尿蛋白は正常の人でも1日150mg程度は分泌されます。したがって、それ以上の蛋白尿は異常となります。なお、尿中の蛋白量が増えると尿の泡立ちとして自覚することもできます。

【糸球体腎炎】

糸球体腎炎を疑った場合の確定診断は、基本的に腎生検（経皮的針腎生検）によります。腎生検は背中から超音波で腎臓を確認しながら針を刺して腎臓の組織を採取し、顕微鏡で詳しく見る検査です。その結果により治療方針が決定します。糸球体腎炎の中には、治療を全くしなかった場合は透析に高確率で移行してしまう病気もありますので、腎生検は非常に重要な検査といえます。しかし、腎障害がすでにかなり進行してしまった場合には腎生検をする意味がなくなってしまう場合もあります。なるべく検尿異常のみで留まっているうちに腎生検の適応を考慮することが大切になります。

糸球体腎炎を疑った場合の確定診断は、基本的に腎生検（経皮的針腎生検）によります。腎生検は背中から超音波で腎臓を確認しながら針を刺して腎臓の組織を採取し、顕微鏡で詳しく見る検査です。その結果により治療方針が決定します。糸球体腎炎の中には、治療を全くしなかった場合は透析に高確率で移行してしまう病気もありますので、腎生検は非常に重要な検査といえます。しかし、腎障害がすでにかなり進行してしまった場合には腎生検をする意味がなくなってしまう場合もあります。なるべく検尿異常のみで留まっているうちに腎生検の適応を考慮することが大切になります。

検尿異常を指摘された場合に考えられる疾患について、代表的なものを紹介しました。健診などで検尿異常を指摘された場合はぜひ怖がらずにお近くの内科を受診してください。腎疾患の早期発見のお手伝いができればと思います。

検尿異常を指摘された場合に考えられる疾患について、代表的なものを紹介しました。健診などで検尿異常を指摘された場合はぜひ怖がらずにお近くの内科を受診してください。腎疾患の早期発見のお手伝いができればと思います。

町立病院では、11月に腎臓病教室を開催します。詳しくはくらしの情報17ページをご覧ください。



【アドバイザー】

長谷川恵美さん・はせがわえみ
より町立病院腎臓内科に勤務。

平成20年産業医科大学医学部医学課卒業後、済生会八幡総合病院、産業医科大学病院を経て、平成23年

検尿異常を指摘された場合は、怖がらずに内科を受診してください。